

令和7年度 肝炎対策協議会（R8.1.7 議事録）

委員長・副委員長の選任

司会：徳島県肝炎対策協議会設置要綱第3条第3項により、委員長は委員の互選により定めるとありますので、どなたかご推薦いただけますでしょうか。

委員：徳島大学大学院の高山教授を委員長に推薦させていただきます。

司会：今、委員より高山委員というご意見がありましたら、いかがでしょうか。

全委員：（拍手）

司会：ありがとうございます。それでは高山委員に委員長をお願いしたいと思います。高山委員長、一言お願いいたします。

委員長：徳島大学の消化器内科の高山でございます。委員長を拝命いたします。皆さんに感謝申し上げます。徳島県においてこの肝炎対策は非常に大事なところですので、ようやくここまで抑制されてきたというところで、先ほどの一番初めのご挨拶にもありましたけれども、なんとかさらに全国のランキングも下がり、高くなる（改善する）ように、皆さんと共に頑張っていければと思っております。よろしくお願ひいたします。

司会：ありがとうございました。次に、設置要綱第3条第3項により、副委員長は委員長が指名するとありますので、高山委員長にご指名いただきたいと思います。高山委員長、よろしくお願ひします。

委員長：それでは、恐縮ですけれども、徳島県立中央病院の柴田先生をお願いしたいと思います。

司会：それでは、柴田委員に副委員長をお願いしたいと思います。

議題1 肝炎対策に係る本県の状況

委員長：この2ページのこのワースト3位のところと、3ページ下のワースト1位のところ、これは年齢調整されていますでしょうか。

事務局：2ページの肝がんの死亡率の方は、年齢調整ではなく人口10万人対ですが、3ページの上の方の肝がんの死亡率が75歳未満の年齢調整をされているグラフになっております。

委員長：徳島県ですと、年齢が高いでしょうから、ワースト3位とか（人口10万人対の）死亡率が高くなっているという側面があるわけですね。

事務局：おっしゃる通りです。

委員長：あと3ページ下のワースト1位、これも年齢調整されていないから高いという側面があるわけですよね。

事務局：そういう側面もあると思います。また、こちらの方は、肝硬変の方は肝炎ウイルスというところと、あとそれ以外の肝硬変の死亡率というところも入ってきておりますので、少し高くなっているのかなという側面もあると考えます。

委員長：はい、ありがとうございます。他何かありますでしょうか。そうするとこれ調整するとそんなに高くないかもしれないし、という側面もあるわけですね。

事務局：おっしゃる通りです。

委員長：あとこの3ページ下の1位のところは、肝硬変死亡率は本当はその内訳を、例えばアルコール性だとか、そのあたりがもうちょっと詳しく検討すると、その原因がよりはっきりするかもしれませんですね。

委員：こちらの統計に関してはアルコール性を除いたもの、ということで統計取られております。

委員長：そうでしたね。そしたら内訳としてそのC型肝炎が何パーセントぐらいで、そのMASH(マッシュ)が何パーセントぐらいで、ということで比較すると、何が主たる原因として徳島県では高いのか、というところがはっきりするかもしれませんですね。

事務局：そうですね。こちらの方が国の統計になっておりまして、アルコールは別、というところになっておりますので、先生おっしゃる通り、いろんな要因というところが、ちょっと見てこないところがあるのかなというふうに思っております。

議題2 第3次徳島県肝炎対策推進計画の進捗について

委員長：この3ページの一番上の受講率というのは、動画とか後から見るということも含まれていないのですか。現地のみでしょうか。

事務局：オンラインですか、研修会 자체がオンデマンドとかを実施しておいたら、そういうもので受講も可能、となっております。

委員長：それでも今年が若干低いのですね。皆さん、ここにお集まりの皆さんからも、啓発活動をしていただきたいというところでしょうかね。

事務局：拠点病院の皆様にも是非、積極的にご参加いただけたらなと思いますので、よろしくお願いできたらと思います。

委員長: よろしいでしょうか。ではその方向で、皆様からもよろしくお伝えしたいと思います。

議題3 徳島県肝疾患専門医療機関について

委員長: この一番初めの、専門医がいなくなったのでというところは、資料3-1ですね、これはやむを得ないということによろしいでしょうか。

全委員: (異議なしの声)

委員長: はい。ありがとうございます。ではこれ(抹消)を認めていただいたということで進めさせていただきます。

あとその後の、現況の調査の結果のところでは、このような資料3-3ですかね、このような結果ですけれども。引き続きこのコーディネーターを養成していただいて、少しでも専門医療機関としては充実した形にしていただきたいということですが、引き続き専門医療機関にはお願いしていくという形で進めさせていただきたいというふうに思います。

議題4 徳島県肝炎医療コーディネーターについて

委員長: コーディネーターの方々のいろんな現況調査、アンケート調査ということでしたけれども、このような、資料4-1の一番下にありますような活動していただいているということですが、よろしいでしょうかね。まあ普及啓発活動という事と、情報提供と相談助言、あと受診勧奨ということで、50パーセント以上という事ですけれども、よろしいでしょうかね。

議題5 その他

委員長: この再治療する場合に前治療と同一の治療薬を用いる場合は、このように前治療8週、再治療は12週としてくださいということが付け加えられたということですが、よろしいでしょうか。

全委員: (異議なしの声)

委員長: はい。ありがとうございます。では、以上ですけれども、時間があとわずかですけども、その他皆様から何か。

委員: 日頃は徳島県肝疾患診療連携拠点病院事業、並びに肝疾患相談室の活動にご理解ご協力賜りまして、誠にありがとうございます。

私からは、本日開催されております協議会とともに、肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会も兼ねております。こちらの予算で作成しております啓発資材についてのご説明と、昨年この協議会で調査の依頼をいたしました、厚労科研「肝炎の克服政策研究事業研究班」から、肝疾患専門医療機関を対象とした調査に関する報告をさせていただきます。

昨年度作成いたしました、皆様のお手元にもございますこのグリーンのリーフレットですね、肝疾患患者さんに役立つ医療福祉制度、こちらは患者さんはもとより自治体、医療関係者の方々からご好評いただきまして、今年度増刷し活用をいただいております。各助成制度の申請には様々な書類が必要となりますので、このパンフレットをもとに資料をお渡しする際に利用いただけるようなクリアファイルを現在作成中でございます。納期の都合上本日現物をお見せできなかつたのですが、この A3 に印刷しておりますものがクリアファイルのデザインとなっております。こちらまた肝疾患診療されている先生方ですとか、肝炎ウイルスの委託医療機関、それから専門医療機関、肝炎医療コーディネーターの皆様にもお配りいたしまして、啓発・制度のご案内の際にご利用いただければと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

もう一点、肝疾患診療連携拠点病院を対象とした院内の肝炎ウイルス陽性者対策実態調査というものを、今年に入りまして 2 月、3 月からですね、させていただきました。徳島県にもご協力いただきまして、本県の肝疾患専門医療機関のうち、消化器科、肝臓内科の他に別の診療科を標榜しております 22 施設を対象とした調査をして、回答 16 施設からいただきました。ご協力いただきました先生方、それから医事課はじめ事務の担当者の方に感謝いたします。

この結果につきましては、現在全国の調査内容を解析中ですが、本県の結果で言いますと、肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨をしている実施施設が 16 施設回答があったのですが、その中の 10 施設、62.5% という結果でございました。

実はこの研究班の中で十数施設、十数自治体で調査をしたのですが、本県が一番悪い成績でしたので、各専門医療機関で肝炎の陽性者をきちんと受診につなげるための取り組み、拠点病院も協力しながら何か考えていきたいかなと考えております。

また肝炎検査を説明する方法としましては、採血の検査結果の用紙を渡して説明するのが一番多く 11 施設。施設としての決まりがなく担当医に任せているのが 3 施設。各施設で独自に作成した結果の通知文書を渡しているというところが 2 施設ということでございました。

この研究につきましては、研究班の分担者から来年の学会に発表、それから論文化に向けてとなっておりますので、またご報告させていただきます。先ほどの県の調査に関しましても、相談窓口をまだご存知ない方がたくさんおられるという結果でございましたので、私たちも肝疾患診療の均てん化とともに、患者さんの相談の窓口、それから差別の偏見をなくしていくための相談の窓口の案内等も併せてしていきたいと思っております。私からは以上となります。ありがとうございました。

委員長：はい、ありがとうございました。では、今の皆様のお手元の資料ですけども、何かご質問ありますでしょうか。よろしいでしょうかね。拠点病院の皆様にも是非、積極的にご参加いただけたらなと思いますので、よろしくお願ひできたらと思います。

よろしいでしょうか。はい。ではその方向で、皆様からもよろしくお伝えしたいと思います。

それから、私から 1 点だけ。最近、ウイルス性肝炎も減ってきてていると思いますけれども、B 型肝炎の再活性化というのは、非常に大きな問題というふうに思っていますし、なかなか表に出てこない、表に出てきにくいところもあるというふうに思っておりますので、先生方、専門医療機関の中の専門医ですので、そういったことがありましたら、よく説明していただいて、再度起きないということを目標に、少しでも啓蒙活動をお願いしたいと考えております。まずはそういったことが起き得るのだということと、こういうふうになることがあるのだということを、いろんな非専門医の先生方に対して、よく説明することも重要なと思っております。以上ですが、皆様何かありますか。いいですか。

以上